

あ  
い  
た  
な  
ん

# 議会

だ  
よ  
り



第5号  
2026.3

住民とともに歩む議会を目指して



## 議会広報研修

議会広報研修結果報告

議会報告・意見交換会(一本松・西海各会場)

一般質問、表決が分かれた議案

常任委員会所管事務調査報告ほか

p2-3

p4-5

p6-7

p8



町ホームページで  
過去の紙面も  
ご覧いただけます。



# 住民に 伝わる 議会広報

「伝えつつも」では届かない 2/2  
(月)

— 住民の立場に立った議会広報の在り方を学ぶ —

講師：PRDESIGN JAPAN(株) 代表取締役 **佐久間 智之氏**



PRDESIGN  
JAPAN



議会広報は、議会でのような話し合いが行われ、何が決まったのかを住民の皆さんに伝える大切な役割を担っています。今回、「住民に伝わる議会広報」をテーマとした研修を受講し、広報の目的や役割をあらためて見つめ直すとともに、住民の視点に立った分かりやすい伝え方について学びました。ここでは、研修で学んだ考え方やポイントを紹介します。

## Point 1

「伝える」から  
「伝わる」広報へ

研修の初めに、議会広報の目的についてのお話がありました。

議会広報は、単に情報を知らせることが目的ではなく、住民の皆さんに内容を理解してもらい、「自分たちの暮らしに関係している」と感じてもらうことが大切だという考え方をします。

書く側としては「伝えつつも」でも、読み手に届いていなければ意味がありません。この言葉は、広報に関わる私たちが常に意識しておくべき大切なポイントだと感じました。

## Point 2

住民目線に立つ  
デザイン思考

続いて、住民の目線に立った「デザイン思考」について学びました。

これは、作り手の都合や考えを優先するのではなく、「読む人がどう感じるか」を出発点に広報を考えるというものです。

難しい言葉を使っていないか、文章が長くなり過ぎていないか、初めて読む人にも分かる内容になっているか——こうした基本的な点を一つ一つ見直すことの大切さが説明されました。

## Point 3

議会を身近に  
感じてもらうために

研修では、議会広報の役割についてもあらためて触れられました。

議会では話し合われた内容を正確に伝えるだけではなく、議会そのものを身近に感じてもらうことも広報の大切な役割です。

中高生や若い世代にとっても、町の将来を考えるきっかけとなるような広報であることが求められており、幅広い世代に配慮した分かりやすい伝え方の重要性を感じました。

## Point 4 全ての人に配慮 した紙面作り

さらに、誰にとっても読みやすい広報にするための工夫について学びました。

文字が多いと読むこと自体が負担になることや、文字の大きさや色の使い方によつては内容が伝わりにくくなる場合があることなど、読み手の**多様性を意識した配慮**が必要だという説明がありました。

具体例として、UDFフォントの活用や、色の濃さや配置を工夫することで読みやすさが向上することが紹介され、「**誰一人取り残さない**」広報を**目指す姿勢**の大切さをあらためて認識しました。

## 今後に向けて

今回の研修を通して、議会広報が住民と議会をつなぐ重要な役割を担っていることを再確認しました。

今後は、今回学んだ考え方や視点を議会だよりの編集に生かし、より多くの方にとつて分かりやすく、親しみやすい議会広報となるよう取り組んでいきたいと考えています。



▲研修受講の様子（役場本庁3階 議員協議会室）

## 感想



奈良県王寺町議会事務局  
村田 大地 係長  
(自治体・議会広報アドバイザー)

研修講師の佐久間智之先生からご紹介いただいた奈良県王寺町議会事務局の村田大地さんに「あいなん議会だより」を読んだ感想をお寄せいただきました。

ここまで方向性の整った紙面に育てられたことに、愛南町議会の本気度と継続的な努力を感じました。

議会だよりは議会の活動報告にとどまらず、住民との対話の入り口になる媒体です。情報を増やすことよりも、何を選び、どう届けるかという「編集の視点」が、これからさらに重要となるでしょう。今回の1年はまさに紙面を整え、伝える基盤を築かれた時間だったのではないのでしょうか。

掲げられている「住民とともに歩む議会を目指して」という言葉のとおり、これからも議会の思いや熱量が住民に届き、まちの空気を担う紙面として育っていくことを期待しています。

創刊から1年。発行を重ねてこられた「あいなん議会だより」を拝見し、まず感じたのは、親しみやすいデザインと情報整理への意識の高さです。議会だよりは情報を詰め込み過ぎると要点が伝わりにくくなる場合がありますが、本紙は内容を適度に絞り、「伝える」よりも「伝わる」ことを大切に編集されている印象を受けました。住民が手に取りやすく、読み進めやすい紙面作りが意識されている点は大きな強みだと思います。

奈良県王寺町議会が発行する「おうじ議会だより」は「町村議会広報全国コンクール」（全国町村議会議長会主催）で入選するなど、高く評価されています。



おうじ議会  
だより▶



# 防災と交通をもっと良くするために 一本松地域で住民と議会が語り合う

令和7年10月28日、一本松山村開発センターで、一本松地域の皆さんと議会が顔を合わせ、普段の暮らしの中で感じている不安や「こうなったらいいな」という思いを語り合う意見交換会を開きました。

当日は、議会活動の報告の後、防災のことや地域の公共交通のことなど、身近な話題についてたくさんの率直な声が寄せられ、会場は「地域のこれから」を一緒に考える温かな空気に包まれました。ここでは、その中から主な意見をご紹介します。

### 防災について

一本松地域の防災について、主に地震への備えを中心に話ししました。津波の心配は少ないものの、水や食料、簡易トイレなどの備蓄が地区として整っていないことや、内海地域の避難受け入れについて住民に十分知られていないことが課題として挙がりました。また、通信遮断への対策として衛星電話やアマチュア無線の活用が必要であること、さらに古い家屋が多く倒壊の危険性があるため調査が求められることも共有されました。加えて、自主防災組織の体制を見直し、防災士との連携を強めることが望ましいという意見も出ました。

### 地域公共交通について

地域公共交通については、まず話し合いの場で資料が用意されていなかったことが指摘され、今後の改善点として共有されました。議論の中心となったあいなんバスでは、高齢者や学生を優先した運行の在り方や、タクシー不足による通院時の不便さが課題として挙がり、運転手不足を補うために二種免許取得への補助や、ライドシェアの導入といった意見が出されました。また、現在配布されているタクシー券について、地域によって実際の利用距離と金額が合っていないため、より実情に合った配分に見直すべきだという声もありました。さらに、利用者の少ない時間帯の運行については、実態調査を行った上で時間帯の見直しを検討すべきだという意見が出されました。



## 防災と交通をもっと良くするために 西海地域で住民と議会が語り合う

令和8年1月28日、西海町民会館において、西海地域の住民と議会が向き合い、日々の暮らしの中で感じている不安や願いについて語り合う意見交換会を開催しました。

当日は、議会活動の報告に続き、防災や地域公共交通など身近なテーマについて、率直な意見が次々と寄せられ、地域の未来を共に考える熱気に包まれました。

ここでは、その中から主な意見をご紹介します。

### 防災について

愛南町では、地域ごとに防災意識や避難訓練の実施状況に差があり、平時からの取り組みにばらつきが見られるとの意見がありました。また、空き家対策は個人情報上の制約により進まず、災害時の危険要因となっています。さらに、高齢者が多い地域では避難支援体制や関係機関との連携が不十分で、自主防災組織の役割や連携方法が明確でないことに加え、物資備蓄についても地域単位での整備や配置の工夫が必要との意見がありました。



### 地域公共交通について

地域公共交通については、コミュニティバスの便数が少なく利用しづらいことや、車両のステップが高く高齢者には乗り降りが負担となっているとの意見が多くありました。また、城辺地域の主要施設への停車、買い物後のバス停までの距離、利用したい時間帯に運行がない点など、利便性向上を求める声が寄せられました。さらに、高齢者向けタクシー券制度についても、配車の遅れや混雑、タクシー事業者・運転手の減少を懸念する意見があり、高齢者の移動手段確保が課題とされています。



# 12月議会

## 「そこが聞きたい」 5名の議員が一般質問

各議員が、農林水産業や教育、地域公共交通等の町政の広い範囲にわたって一般質問を行いました。



嘉喜山 茂



Kagiyama  
Shigeru



問 持続可能な農林水産業の推進（気候変動による影響等）について

答 気候変動に対応し、スマート技術導入や担い手支援、資源管理を進め、持続可能な農林水産業の振興に取り組む。

問 ハラスメントのない環境づくりと人権の尊重（ハラスメント防止に向けた体制整備等）について

答 クレームやハラスメントは組織的に把握・対応し、相談体制と研修を通じ、職員が安心して働ける環境づくりを進める。

金繁 典子



Kaneshige  
Noriko



問 県外生のための高校生寮を建設する計画について、町民に説明は？

答 関係者へ説明は行いが、一般町民への説明は考えていない。

問 国は、防災に女性視点を取り入れるよう求めているが、取り組み状況は？

答 防災対策会議などにおける女性の割合や、女性の視点を生かした避難所運営マニュアルの策定などを進めていきたい。

問 児童発達支援センターの機能充実のため、人員の配置は？

答 センター長は専任がベストだが、全体的なバランスも考え、できるだけサービスが充実するよう配置を考える。

池田 栄次



Ikeda  
Eiji



問 地域住民の高齢化や温暖化の影響を踏まえた持続可能な町道の維持管理について

答 各地区の作業実態や負担状況を把握して、財源・運用等の課題を総合的に勘案して現実的かつ持続可能な維持管理体制の検討を進める。

問 RSウイルス感染症の予防啓発と高齢者へのRSウイルスワクチン予防接種費用の一部助成について

答 関係機関への情報提供と広報やホームページ等で予防啓発を行う。高齢者へのRSウイルスワクチン予防接種費用の助成については、国の有効性の検証状況を注視して判断する。

原田 達也



Harada  
Tatsuya



問 遊休農地の再生、維持管理、発生防止について

答 町内全農地の43%が荒廃農地となっており年々増加の傾向にある。農業委員会では毎年農地パトロールを実施し、現地確認の結果を基に所有者への指導、農地バンクの活用等を推進している。

所有者不明農地の解消については「所有者不明土地管理制度」の創設を踏まえ関係部署との連携を図り対応していく。

今後、農地バンクを有効に活用し、所有者と耕作者とのマッチングを図っていく。

二次元コードを読み取ると一般質問の動画が視聴できます。



**問** 学校の3校のエアコン整備329,400千円の状況と詳細設計は説明されるのか？

**答** 12月15日に詳細設計完了予定です。

**問** 11月に示された南宇和高校の寮整備6億円の背景、予定は？

**答** 生徒の全国募集に合わせて寮を新築し、生活環境の良さをアピールすることが、生徒獲得につながるかと考えている。

**問** タクシーの供給不足についてライドシェアやデマンドタクシーの検討は？

**答** タクシー会社や関係機関と課題の共有を進める。

石川 秀夫



Ishikawa  
Hideo

表決が分かれた議案(討論の概要および結果)

討論

愛南町特別職の職員で常勤のものの給与及び旅費に関する条例等の一部改正について



愛南町の財政状況が悪化し、町の貯金の取り崩しがいよいよ次の決算から始まるのではないかと危惧する。今のうちから経費を削減する努力をしておかなければ、貯金が底を突く事態となりかねない。そのため、特別職(町長、副町長、教育長、議員)のいわば地域経営責任として、今回は特別職の期末手当の支給割合の引き上げは据え置くべき。

結果 →

賛成 10



反対 3

原案可決



12/3 定例会

討論

県立南宇和高校の寮建設に関する特別委員会設置に関する決議について

南宇和高校の存続と魅力化のための寮整備であり、議論や検証は既存の委員会や全員協議会で十分対応可能。必要な情報公開や説明を充実させ、透明性とスピードを両立させることで、子どもたちの未来につながる取り組みを着実に進めるべきであり、特別委員会設置には反対。



南宇和高校の魅力化推進には大いに賛成であり、町民からもアイデアを募ってほしい。一方で、今回の学生寮建設・運営案は、億単位の税金を使うことになるため、厳しい財政状況でこれを優先する理由、なぜ県に補助を要請しないのか、津波浸水地域で安全性は大丈夫なのか等、不明な点が多い。議会が調査し町民が納得できる案を提示すべき。

結果 →

賛成 4



反対 9

否決



12/12 定例会

討論

セクハラ議員の役職(総務委員長)不適格、及び愛南町議会としてセクハラ議員への処分に関する請願について



議会基本条例と議員倫理を踏まえ、セクハラ事案を看過する姿勢は許されない。町民、とりわけ女性の不信と不安の声が見られている以上、議会は説明責任と再発防止に向き合う必要がある。請願を取り上げない対応は自浄能力を欠き、是々非々の原則に立つて請願を採択すべき。

結果 →

賛成 2



反対 8

不採択

(除斥1・退席2)

※本会議において討論が行われたもののみを掲載しています。

# 傍聴 においでください!

議会の本会議や委員会を傍聴することができます。

## 本会議(定例会及び臨時会)の傍聴

傍聴人受付票に住所・氏名を記入し、議場の傍聴席で傍聴してください。

また、本会議は専用サイト(愛媛CATV)でインターネット中継を行っています。



愛媛CATV

## 委員会の傍聴

傍聴人受付票に住所・氏名を記入し、各委員会が開催される会議室で傍聴してください。

今後の予定

### 3月6日(金)~19日(木)

### 3月定例会

- ・正式には議会運営委員会での協議の上、本会議で決定します。
- ・本会議の開催日は町ホームページに掲載します。

## 編集後記

### 「議会だより」第5号、いかがでしたか?

3月を迎え、年度の締めくくりの時期となりました。今号では、定例会での審議内容や一般質問、地域での議会報告会を中心に町政の動きをお伝えしています。

また、議員研修では、自治体広報アドバイザーの佐久間智之さんから議会広報に関する話をお伺いしました。町民に伝わるお手本として奈良県王寺町議会の議会だよりを紹介され、「せっ

かくだから担当の村田大地さんに講評してもらいましたよ」と、すぐに連絡を取っていただきました。関東から遠路お越しいただいた佐久間さん、急なお願いにもかかわらず感想をお寄せいただいた村田さん、どうもありがとうございました。

これからも議会を身近に感じられる議会だよりの制作に努めてまいります。

(岡)

## 所管事務調査

### 「愛南町への若者の移住・定住促進について」

愛南町では若者の人口流出や高齢化が進み、地域の活力維持や産業の担い手確保が大きな課題となっています。特に移住・定住の促進による雇用対策や住環境整備は、町の持続的発展に向けて重要です。

そこで本委員会では、現状整理と梶原町への視察を通じて改善策を検討しました。梶原町では町が空き家を改修し低額で貸し出す制度を導入しており、若者や子育て世代の移住促進に効果を上げています。愛南町でも空き家バンクの登録不足や即入居可能住宅の少なさが課題であり、モデル住宅整備や改修支援の必要性が指摘されました。また、地元企業とのマッチングや交流拠点整備、一次産業との連携による雇用創出、医療・子育て・交通・教育など生活基盤の充実も求められています。

よって、以下の事項を提案し報告とします。

- ①空き家の活用と住環境整備
- ②若者・移住者の定着支援
- ③一次産業との連携による雇用創出
- ④総合的な環境整備

産業厚生常任委員会



町ホームページ



## 皆さんの声を聴かせて!

皆さんのなぜ?あれはどうなったの?これをしてほしい etc...

小さな声を集めて、大きな声にするのが、私たち議会の仕事です。町民の皆さんからの「声」をお待ちしています。二次元コードからどうぞ!

皆さんの声はこちらまで▶



### 編集委員会メンバーのご紹介

やる気満々!

田中 純樹	岡 雄次	尾崎 恵一	嘉喜山 茂	山本 美佐	金繁 典子
-------	------	-------	-------	-------	-------